



おにぎり通信

2019年8月24日（土曜） 四ツ谷おにぎり仲間

こんにちは！私たちは毎週土曜日に、四ツ谷周辺と銀座、日比谷公園、東京駅周辺で生活されている方々を訪問しているボランティアグループです。

8月も残すところ1週間となりました。夏休みも終わりに近づき、溜まっている宿題を必死で頑張る子供もたくさんいるかと思いますが、最近では、夏休みが短くなってこの週末でもう終わり、という地域が増えていきます。

そもそも学校の夏休みは、暑くて学業に差し支えるということで設けられています。近年はさらに暑くなってきている一方で、学校への冷房の設置が進んでおり、真夏でも教室で授業ができる環境が整ってきています。そうした中、小学校で英語やプログラミングが必修になる等、授業時間が増えており、夏休みをたくさん取る余裕が無くなっているのです。どんどん世知辛くなっている感じがします。

☆8月13日（月）福祉行動報告

どなたもお見えになりませんでした。

次回の福祉行動：8月26日（月）

東京駅丸の内南口地下に朝8時30分までに来てください。車輪の前に「おにぎり通信」を持った者が待機しますので、声をかけてください。病気やケガの治療を希望される方や体を休めたい方と「福祉事務所」に同行します。福祉行動は原則、毎週月曜日に行います。福祉行動は、参加される方がご自身の希望をご自身の言葉でハッキリと福祉事務所に伝えることで成り立ちます。

最寄の福祉事務所

中央区福祉事務所・・・中央区築地 1-1-1 中央区役所4階

千代田区福祉事務所・・・千代田区九段南1-2-1 3階

【うちわ（団扇）】

夏に涼しさをもたらす「うちわ」ですが、もともとは風を起こして涼むためのものではありませんでした。2千年前に中国から日本にもたらされた頃は、高貴な人が顔を隠すのに使われていました。室町時代になって、風を送るうちわの原型ができたと言われています。戦国時代には、指揮をとり矢石を防ぐ武将の軍配や、戦場で敵味方を見分ける目印にも使われました。武田信玄が手にしている軍配うちわが有名です。江戸時代には、歌舞伎役者などの顔を描いた色鮮やかなうちわ絵が人気で、着物や浴衣の帯に挿して、おしゃれの小道具にもしました。

国内では、1億本以上のうちわが作られています。その9割が、「丸亀うちわ」で有名な香川県で作られています。丸亀うちわは、江戸時代に、金毘羅参りのお土産として人気が出ました。「伊予竹に土佐紙貼りて扇（阿波）ぐれば讃岐うちわで至極（四国）涼しい」と詠われるように、うちわの材料である紙・竹・染料（藍）が全て四国の中で揃うことで、讃岐丸亀でのうちわ生産が盛んになりました。現在、日本で作られているうちわの殆どが、企業がイベントなどで配る広告宣伝用です。ティッシュペーパーと同じく、街で配られることが多く、うちわはタダで貰えるもの、という感じが強くなっています。

奈良の唐招提寺では、毎年「うちわまき」が行われます。鎌倉時代に偉いお坊さんが、弟子が蚊を叩こうとしたのを、「蚊に血を与えるのも菩薩に至る修行の道」と、蚊を殺すのを止めた故事に因みます。うちわは、お寺で虫払いに使われていました。血を吸う蚊に対してすら思いやりを向けないといけないとは、悟りの道はなかなか厳しいです。



おにぎりを包んでいるラップや読み終わった通信は放置せず、ゴミ箱に入れるなど、片付けにご協力をお願いいたします。おにぎりは必ずその日のうちにお召し上り下さい。また、お1人1個でお願いします。

四ツ谷おにぎり仲間 千代田区麴町6-5-1 聖イグナチオ教会
連絡先 080-7967-8672 (連絡可能時間 毎週土曜日午後3時~6時)